

戸越八幡神社のケンポナシについて

伊藤 弥寿彦

戸越八幡神社境内にある御神木のケンポナシの木は、都区内では相当希少性の高い希有な巨木である。この木は、昭和 53 年に品川区の天然記念物（第 15 号）に指定された。幹周り 2.5m、高さ約 18m。樹齢は 250 年～ 300 年と推定されている。

品川区指定文化財についての資料によれば、品川区指定天然記念物の樹木は 1 号～ 22 号までの 22 本である。そのうち 3 号と 18 号、19 号は記載が見当たらず不明だが、残りの 19 本の内訳を見てみると、イチョウが 8 本、タブノキ 3 本、スダジイ 2 本、フウ 1 本、ボダイジュ 1 本、アカガシ 1 本、サクラ（ヤマザクラ系とエドヒガン系の交配種）1 本、カキノキ 1 本、そしてケンポナシ 1 本である。この 19 本のうち 16 本が神社仏閣の境内にあり、いかに神社や寺が都区内に残る大木の重要な残存地であるかがうかがえる。

筆者は、2012 年から行われた第二次明治神宮境内総合調査を立ち上げ、150 人におよぶ専門家の協力を得て、史上初となった境内の動植物全般にわたる調査を行い、同時にその映像を記録し、NHK スペシャル「明治神宮 不思議の森」の監督（ディレクター）を務めた。明治神宮で記録された植物は 779 種におよんだが今回の調査でケンポナシは記録されなかった。明治神宮の樹木は 100 年前の 1920 年の鎮座にむけて日本中から集められ植樹されたものだが、実はその時にはケンポナシが含まれていた。しかし 100 年後の今、残念ながらその姿は消えていたのである。

ケンポナシは、北海道から九州までみられる広域分布種ではあるが、大木は多くない。筆者はこの 5 年ほど、神社の自然、社叢林（神社の森）を調査し、日本全国 500 ヶ所以上の神社を見てきたが、その中でケンポナシを観察したのは数えるほどで、まして一抱えにできないような大木となると、戸越八幡神社で見たものが唯一と言える。

戸越八幡神社のケンポナシが、品川区の天然記念物に指定されたことは、大変懸命な措置だったと考える。上記に上げた他の天然記念物の樹種の中で、最も希少性の高い種であることは疑いない（因みにイチョウやフウ、ボダイジュは日本の在来種ではない）。

問題は、戸越八幡神社のケンポナシが、境内の敷地ギリギリに生えていることである。幹は境内の内側にあるが、一部の枝葉と根は隣の敷地まで伸びているのは明らかだ。隣の敷地に建物を建設するには、この天然記念物に指定された木にダメージを与えることがあってはならないだろう。特に地面を掘り返して根を切断することは樹勢を損ないかねない。このような木を損なうことは品川区にとっても大きな損失となるから、区としても建物の建設に対して慎重な対応と適切な指導をされることを強く望むものである。もしもの事が起こってからでは遅い。



Fig.1 境内内側から見たケンボナシ。
幹周りは一抱え以上ある。

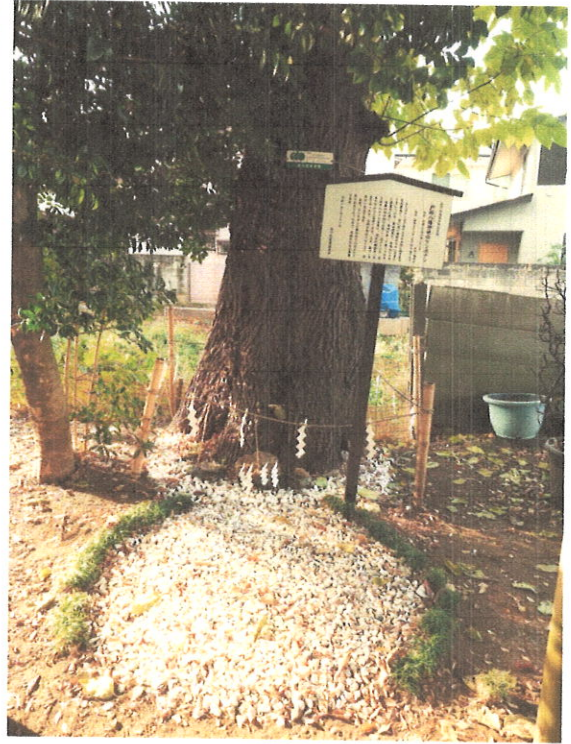


Fig.2 神社の御神木となっている



Fig.3 品川区による天然
記念物の立て看板